

高輪消防署

にほんえのき

二本榎出張所

DATA

名称 高輪消防署 二本榎出張所
所在地 東京都港区高輪 2-6-17
完成 昭和 8 年
設計者 越智 操

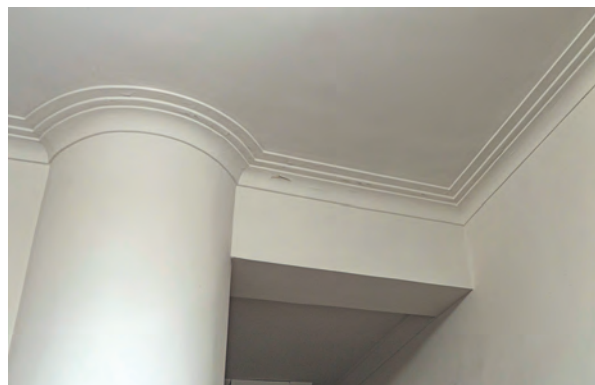


日本初の国産ポンプ車が展示されている





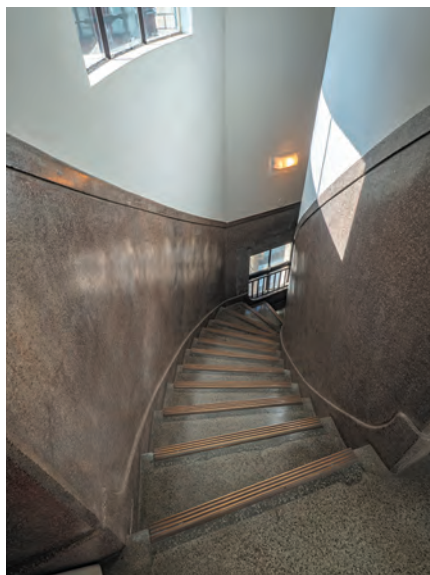
現在は展示室とされている円形講堂。
8本の梁が独特の意匠となっている



天井と壁の間には「コーニス」が施される



停電時の照明とされていた
アールヌーボー風のガス灯



曲線をモチーフにした階段

海

抜25^{メートル}、かつては江戸の街を一望する景勝地であった高輪に、二本榎出張所はある。

完成したのは昭和8年（1933年）。鉄筋コンクリート造の地上3階建て、さらに円塔形の望楼（火の見やぐら）がそびえる。1階下部（腰壁部分）は、切り出された花崗岩が積み、建物全体はクリーム色の磁器タイルで覆われている。

完成当時は、周囲に高い建物もなく、海からもこの建物が見えたことから、「岸壁上の灯台」「海原に行く軍艦」と評されたという。

建物の内部で特徴的なのは、現在は消防の資料展示室とされている3階の円形講堂だ。8本の梁が中心に集まり、10個のアーチ状の窓と壁が曲線を描く。

第一次世界大戦後に流行した「ド

イツ表現主義」というスタイルで、曲線と曲面をモチーフとする躍動感のある設計が特徴である。

階段も、大理石とセメントを練り固めたものを研磨し、曲線をモチーフとしたものとされている。

円柱と壁、天井の間には、「コーニス」とよばれるギリシャ・ローマ時代の装飾様式が施される。

設計したのは、警視庁総監会計課営繕係の越智操（おちみさお）といわれる。当時は、消防は警視庁の管轄であったためだ。

建物以外にも、出張所には「消防遺産」ともいえるものが多く保存されている。

前述の円形講堂には、停電時の非常用照明とされていたガス灯が保存されている。点灯することはできないが、アールヌーボー風の美しい姿を現在に伝えている。

別棟の車庫には、昭和16年から昭和39年まで活躍していた「ニッサン180型消防ポンプ自動車」が展示されている。本格的な国産消防ポンプ自動車の第1号といわれるこの車は、約2年をかけて走行可能なまでに修理、再生された。

この建物は、平成22年（2010年）に、「東京都選定歴史的建造物」に選定されている。